

つぼみ

「華動」する坪み茶室



都市の中にある蕾

茶室＝ふれあいの場・ポータブルに・光で装飾

SNSの登場により人間関係が希薄化している現代、茶室がふれあいの場になるのではないかと、そして、スマホのように茶室もポータブルにできないのか、そこでクリアファイルを使った茶室を計画した。クリアファイルは持ち運びも簡単にできる華動（可動）であり、誰でもどこでも手に入れることができる。運搬時は「蕾」茶室になると「華」のように輝く茶室。そして、この茶室の中にいる人を「華」のように見せる。千利休の茶室により壁が出現したが、あえて壁という概念を無くしたい。ドアなどを特別に作らず、内と外との空間に連続性をつくる。全ての方向から茶室に入れ、また跳めることができる空間を仕切るための物質、壁のない建築、人が集まる「場」を目指した。光といった求心性のあるコアの周りに「場」がつくられていくことは人間の暮らしの根源であり、それは、炉でお湯を沸かして茶を味わいながら主客が心を通わせる茶の湯の空間に通じている。そんな光にどうアプローチするか。クリアファイルは透明の素材のため自然光を取り入れ様々な色の光の変化を楽しむ。また軽いため、風によって形が変わる。そんな自由な空間を目指した。

設計手法

